

市民助け合いネット

仲間通信

〔第37号〕

発行

NPO法人
市民助け合いネット

代表 片岡 興一
〒270-0123 流山市若葉台3-131
☎ 04-7153-5733

平成30年12月末現在

私たちの仲間

総数 1142名

提供会員 425名

利用会員 717名



明けましておめでとうございます。今年も頑張ります。(写真は会員交流会)

多くの市民が小さな親切を寄せ合って 安心して快適に暮らせる街を作ろう!!

明けましておめでとうございます。本年も皆さまにとつて幸多い年になりますよう心からお祈り申し上げます。今年、平成最後の年、新しい天皇即位に合わせ、新元号が決まる節目の年でもあり

ます。西暦以外に独自の元号を正式に使っている国は、日本以外になく、国を治めていく上には煩わしいことが多い元号ですが、世界に類を見ない文化として残せるものなら残しておきたいものです。

今年の干支は亥。十二支の最後の干支で、運勢的には「現在の状況を維持し守りの姿勢に徹した方がよい」「次のステージに向けた準備期間」と言われています。亥年の亥はイノシシ。古くから猪の肉は万病に効果があるとされており、無病息災の象徴とも言われています。いずれにしても運勢や干支を前向きに捉えて、充実した生活を送るよう心がけたいものです。

市民助け合いネットの昨年一年間を総括すると「これからの新しいステージに向けた変化の年」だったと言えます。

まず、助け合いの会を運営するうえで担い手の確保が重要です。現状は会員の高齢化、若い方の入会が少ないなどで、サービス提供会員不足が悩みの種ですが、地域に助け合いの会を作るお手伝いをする傍ら担い手になる人材確保の働きかけを始めています。その方策として「出前講座」を五年ぶりに始める準備を進めています。

また、ゆうゆう大学で「近所の底力」をテーマに介護支援課と連携して助け合い活動の必要性・重要性を講義する機会が持てたことは、今後、助け合い活動の仲間づくりに生きてくると期待しています。

助け合い活動を始めて十五年目に入ります。昨年だけでも当会の生活支援を利用したいご高



昨年の主な活動 とトピックス

弘田副代表が流山市の「生活支援コーディネーター」を委嘱されました。

四月一日付けで副代表の弘田佳子氏が流山市から生活支援コーディネーターを委嘱され、四月九日に流山市役所において委嘱状の授与がありました。平成三十年から三年間、改正介護保険制度の総合事業実現のために一役担うことになりました。医療・介護をはじめ高齢者福祉の各分野が一体になった協議体を中心にまちづくりを進めていくことになりましたが副代表の高齢者福祉にかける熱い思いと持ち前のバイタリティ、行動力を買われてのもです。

市民助け合いネットも会を挙げて、弘田コーディネーターをバックアップして高齢者が安心して暮らせるまちの実現を目指して頑張ります。手始めとして市内二十カ所の「ふれあいの家」の活性化をテーマに取り組んでいます。



早川健康福祉部長から弘田副代表に委嘱状授与

昨年の主な活動とトピックス

助け合い受付管理システムを開発、四月から稼働しました。



市民助け合いネットとして永年の夢だった助け合い活動の受付業務のシステム化に取り組んできました。基本構想から六か月を経て、四月二日にシステム環境設定、二日から仮運用に入り、使い勝手を良くするため、受付スタッフの要望に沿った改良を加え、受付管理システムが本格稼働しました。稼働開始から九カ月が経過しましたが、今では、受付業務に慣れてはならないシステムとして定着しています。

従来、スタッフ個人のスキル任せだった受付業務をシステム化することで業務の標準化と効率化が大幅に図れます。管理業務も別々の作業として行っていたものを会員登録や提供会員の活動精算、預託金管理および各種報告帳票作成をデータベースを活用して一元処理が可能になりました。

本来、開発には多大な費用が必要になりますが、提供会員の中にシス

テムエンジニアのスーパー専門家がおり、その方の協力を得て費用ゼロで今回の開発につながりました。ボランティア活動も近代化・省力化に取り組む好例と言えます。

「えがお」利用者、四年で二万人達成!!

ふれあいの家「えがお」の来場者が七月三日(火)、二万人に到達しました。二万人目の幸運の方は「えがお」のある若葉台にお住いの「矢敷清」さんでした。この日は、イベントの中でも大変人気の「えがお寄席」の日でしたので、大勢の落語好きの方が来場してくれました。

来場者の温かい拍手を受け、片岡代表と一緒にくす玉の下で記念写真を撮り、皆で祝いました。

「えがお」がオープンした平成二十六年七月からちょうど四年での達成となりました。次の三万人到達が待ち遠しくなりました。昨年は年間来場者が約六千人でしたので、二〇一九年年末までには三万人到達が期待できます。次の幸運は誰になるか? そのためにも「えがお」にどんだん足をお運びください。



「えがお」で会員交流会を開催しました。

去る七月七日(土)にふれあいの家「えがお」で平成三十年度の会員交流会を開催しました。

日頃、会員同士が一堂に集う機会が無いので、年一回の会員交流会は貴重な交流の場となっています。

今年は昨年より参加者がやや少ない四十四名でしたが、皆さん大変お元気で、大いに交流を深めていただきました。市民助け合いネットのトピックスとして弘田副代表が流山市から生活支援コーディネーターを委嘱されたこと、ゆうゆう大学で「ご近所の底力」をテーマに講義を行い助け合いの仲間づくりに取り組んでいることやこの七月三日に、えがお来場者が二万人を突破したことを紹介しました。会員の方からは、活動を通して経験した出来事などの紹介がありました。

厚労省から「総合事業」の進捗状況確認のため、視察がありました。

八月九日(木)に厚生労働省老健局振興課の訪問がありました。地域住民主体の助け合い活動の進展状況(制度がうまく定着しているかどうか)の現場視察ということで当会にも白羽の矢が当たったようです。

当日はふれあいの家えがおでハワイアン演奏があり、視察に来た方が飛び入りで一緒に歌ったりと、みんな盛り上がりしました。

当会は国の制度とは関係なく自発的な助け合い活動に取り組んで十四年が経過し、地域に無くてはならない存在になっています。活動が継続する原動力は『困った時はお互い様の気持ち』がみんなを結

び付けていることが少しでも伝わったなら幸いです。

第二回えがお文化祭 盛況裏に終わる!!

昨年の悪天候の第一回えがお文化祭と打って変わって秋晴れの爽やかな十月二十日(土)と二十一日(日)の二日間にかけて第二回えがお文化祭を開催しました。

日頃、情熱を傾けて製作した芸術作品七十数点をふれあいの家「えがお」に展示し、大展望会場が出来上がりました。二日間で来場者数は一四〇人超を数え、出展作品の前で芸術談議に花を咲かせて、大変盛況な文化祭となりました。

特に若葉台在住の方から「魚拓」の展示がありました。私たちが日頃、目にする「魚拓」と違い絵画と見まがうほどの作品で、来場者の話題をさらっていました。今回はどんな大作・名品が出展されるか? 待ち遠しくなりました。



ゆうゆう大学「ご近所の底力」をテーマに延べ二六〇名に講義



ゆうゆう大学から地域福祉活動について講義要請を受け、NHKで放送された「ご近所の底力」をテーマに四学園、延べ二六〇人の生徒に講義を行いました。活動の内容に感嘆する声や、活動に参加したいなどの声をたくさん頂戴しました。半面、当会の活動を知らない方も多く、引き続き、活動の啓蒙に努める必要性を感じました。

事務所からのお知らせ

- ★あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。
- ★助け合いの依頼は、余裕を持って早めにお願いたします。また、依頼は必ず事務所にお願いたします。
- ★千ヶットの精算は、活動後、できるだけ早くお願いたします。